

す常套の没骨法にもよく機褥を避け、手法構圖共に清雅の掬すべきものがある。抱一の草花は往々にして輕媚に長ずるもの多く、彼が琳派の後勁として新たに拓ける一境のこの點にも存するは云ふまでもないが、他面またその典麗なる諸作の光琳に勝るを稱せられてゐる。この二幅またかの瀟洒なる他の諸作に比すれば或は多少の輕趣に劣るも、却つてその溫藉を見るべく、中幅の妍華の致と相俟つて正しく彼が法を斯派の先蹤に得てその技既に醇熟せる後の製なるを知る。かの文化十二年の光琳百回忌に際する展覧目錄に見る東下り二幅對、就中光琳百圖に載する繪變り屏風中の諸圖等は、比して以て此の畫の構致の跡を識るべきものである。またこの草花をか文化末年の款記ある帝室博物館所藏

抱一筆東下り圖款印（原寸）

草花圖卷に照せば、彼の謹厚に及ばずとするもなほ滋柔の採るべきがあり、以て彼の晩年の一優品に加へ得るものであらう。（渡邊）

六 十一面觀音像

千葉縣

觀福寺藏

金銅造 像高四二釐（一尺三寸八分六厘）
圓盤徑六一釐（二尺四分六厘）

この十一面觀音像は之と同型の釋迦、藥師等と共に曾て香取神宮の本地佛として同社に祀られ來つたものであるが、明治初年神佛分離に際して民間に出で、轉じてこの三軀はまた同型の地藏と共に觀福寺の有に歸して今日に至つた。而して本十一面並に釋迦像の背面に各弘安五年の造像銘があり、藥師もまた之と

同時のものとせられ、地藏はやゝ下つて延慶の銘文を刻んでゐる
造像銘記第九
九、一〇〇及
二四。本十一面像のそれは左の如くである。

奉送「香取太神宮御本地四跡内」十一面觀世音菩薩」

右志者爲天長地久當社「繁昌異國降伏心願成就」造立如件」

弘安五年 壬午八月一日 佛師沙彌蓮願 敬白

本像の銘文はかくその右端を缺くも、釋迦像の其處には「朝臣實政」の四字を讀まれ、延慶造立の地藏像は斯の人の追福の爲なりしをその銘文に見、之を以て北條實時の三男にして弘安の役に功ありし上總介實政に當て得る者である。かくこの四軀は特に關東に於ける年記由緒共に明かなる佛像として豫てより

知られ來つたが、觀福寺に入れる頃より新たに臺座を附して安置せられたが爲に、その原初の形に就いては殆んど世上の注意を惹かなかつた。而して之を以て懸佛とする見解は夙に鹽田敏郎氏の考古學雜誌上に一度ならず述べられたる所にして、就中その第廿三卷第三號にはその旨趣を盡して殆んど餘すなきものがあつた。尙斯像の専門的なる調査の詳細には大川逞一氏の「なのか」第七號に寄せられた一文があり、共に就いて見るべきものであるが、唯當研究所また幸にその臺座を除ける寫影を收めたので此處に之を掲ぐることにしたのである。

寔に之等の諸像は一見して直ちにその懸佛たりしかを想はしめる。之を本像に見るに、圓盤四周の細孔は覆輪及び釣座の鉤孔なること、其處に之等の附着せる痕跡を辿り得ることによつても殆んど疑ひ得ない。佛頭背部の圓盤上の四小孔は恐らく光背を存せる痕なるべく、舊臺座は之を佚するが蓮座にして佛體下方に突出する數箇の柄と、圓盤中央下方の一孔とによつて支へられてゐたものであらう。而して佛體自身は常の如く背面に二箇の柄を出して圓盤中央の二孔に取付たるものである。像は丸彫にしてその鑄法は首より跏趺坐までを二つに割れる惣型式、雙手の肩に繼ぐ仕方はアリ落しと云ふものなりと云ふ。そ

して稍佛像との比例を小にするが爲に、之を懸佛とするを疑はんとする所見の存するを見る。併し乍ら此種の本地佛の多く懸佛に作らるゝは最も普通なりしを想ふと共に、果して鹽田氏の所説の如く、重量の大も之を懸垂しつゝなほ下方より長押等を以て之を支ふる他の諸例を知り得、又像と圓盤とのかゝる比例もその時代の比較的夙きが故に歸し得るならば、この疑問も恐らく必ずしも解き難きものではないかに見える。

本像はこの四軀中に在つて手法最も優秀である。製作既に鎌倉後期に屬して様式やゝ纖柔に傾くものなしとしないが、相貌端整にして肢軀の細修なるによく藤原期の餘響を保ち、而も衣文に寫實的なる取扱を示して一種の調和を見出してゐる。この古様を保てる點は或はそれが懸佛なりしが爲に歸し得るものゝ如くであるが、同時に之を懸佛として見るとき、その極めて大作にしてまた最も優れたる作の一に屬すべきは言を俟たない。

なほ本像の現在の臺座は既述の如く明治初年に加へられたる木製のものにして、底面に當寺奉納の由緒を墨書して居る。また嚮の地藏を除く餘の三軀と共に香取神宮本地佛の一體なりしと云ふ觀音像の

此寺に近き大須賀村耕田寺に在るを聞いてゐるが未だ實査の機を得ない。

(渡邊)

内外彙報

國寶内定寶物類展觀 昭和十年二月國寶保存會決議による國寶内定寶物類は、

去る二月二十五日、文部省六階會議室に於いて公開展觀せられた。内定品數は

二百三點に及んで居るが、當日は、中、八十九點を展觀した。

當日出品の諸點は左の如くである。

紙本墨書是法非法經(天平十二年三月十五日藤原夫人願經)

「元興寺印」ノ朱印アリ

一卷 安田善次郎

十一面
觀音像
銘文

千葉縣
觀福寺藏